

【ティーボール ルール】

1. 競技場

- ・競技場は、その状況に応じて特別ルールを作ることができる。
- ・バッティングティーは、ホームプレートの後方50cm以上1m以内に置く。
- ・バッターズサークルは、ホームプレートの角を中心にして半径3mのサークルを描く。

2. 用具

1) バット

- ・少年軟式用又は硬式用を使用する。

2) ボール

- ・軟式J級を使用する。

3) シューズ

- ・樹脂スタッド（スパイク又はシューズ）を着用することができる。
- ・金属製スパイクの使用は禁止する。

4) 服装

- ・プレーに支障のない服装とする（ユニフォーム又はジャージ）。
- ・試合中は番号のついたビブスを着用する。

5) ヘルメット

- ・少年軟式用又は硬式用を基本とするがその他でも可とする。

3. プレーヤー

1) 守備位置

- ・本塁手以外の各守備者は、打者が攻撃をする時はフェア地域内にいなければならない。
- ・本塁手は、打者が打撃を完了するまではバッターズサークル外にいなければならない。

2) 選手の交代

- ・登録されている選手は、1試合の間に、1打者以上の守備、1打席以上の打席、1度以上の走塁のいずれかで出場すること。
- ・選手の交代は、監督が球審に申し出た時に成立する。
- ・交代した選手の再出場は認める。

4. 試合

1) 攻撃と守備

- ・予選リーグ戦は9人一巡で攻守交替とし、決勝トーナメントは3アウトまたは9人一巡で攻守交代とする。
- ・9人目の打者の時はそれまでのアウトカウントに関係なく2アウトとする。

2) 試合の進行と停止

- ・球審は、打者の打撃が完了し、守備側のプレーが一段落したと判断した時は、「タイム」を宣告しボールデッドとする。
- ・試合の再開は球審のプレイ宣告による。
- ・選手、監督はタイムを要求することができる。

5. 打者

1) 打者の義務

- ・打者は、バッターズサークル内に位置し、バッティングティーの高さを調節した後、打撃準備姿勢をとらなければならない。
- ・打者は、ピッチャーが投球アクションをした直後でなければ打撃することができない。
- ・打者は、軸足を2歩以上動かして打撃してはならない。

2) 打撃順

- ・各回（イニング）の先頭打者は、前回の最後に打撃を完了した打者の次の打順のプレーヤーである。

3) 打撃順間違いの対応

- ・打撃中に打撃順の間違いを指摘された場合は、間違えた打者によって生じた全てのプレーを無効とし、ボールカウントを引き継いで正規の打撃順の打者に交代する。

6. ストライク

1) 次の場合は球審はストライクを宣告する。

- ①空振りした時。
- ②ファウルボールとなった時。
- ③打者がバントやプッシュバントを試みたと球審が判断した時。
- ④前項 1) 打者の義務に違反した時

7. フェアボール・ファウルボール

- ・公認野球規則によるほか、バッターズサークル内にある打球はファウルボールとする。ただし、フェア地域内にあるバッターズサークルライン上はフェア地域に含む。

8. 打者がアウトになるとき

1) 次の場合、打者はアウトになる。

- ①2ストライク後に空振りした時。
- ②2ストライク後に打球がファウルになった時。
- ③2ストライク後にバントやプッシュバントを試みたと球審が判断した時。
- ④2ストライク後に打者の義務に違反した時

9. 走塁

- ・盗塁は禁止とする。
- ・離塁は、打者がボールを打ってからとする。離塁が明らかに早い場合は、ランナーを戻して打ち直しとする。

10. その他の事項

- ・大会ルール、野球規則以外の不足のプレーに関しては対戦チーム同士で協議の上、判定を決定することができる。
- ・試合中は監督またはコーチがマウンドの投手の位置まで行くことができる。この場合、バッテリーと野手を集めて指示を与えることができる。
- ・審判員に対する申し出、規則上の異議の申し入れは、監督・主将または当事者に限り行うことができる。